

広島市感染症情報センターからの効果的な情報発信について

吉貞奈穂子 片岡真喜夫 末田 義博*1 大岡 賢昂*2 三上 雄大*2

はじめに

現在、公衆衛生情報の解析提供事業の一環として、広島市感染症情報センターを運営し、保健センターから毎週送られる各種の感染症データおよび当所での検査結果データの収集・解析を行っている。その結果を、毎週、広島市ホームページ作成システム (i-City) を用いてホームページ (HP) を作成し市民に向け提供している。しかし、広島市 HP は、利用者の市民にとっては必要な情報を検索しにくい、HP 作成者にとっては編集作業が煩雑など様々な問題がある。

今回、市立大学との共同研究 (自主プロジェクト演習課題) として、利用者側と作成者側双方のユーザビリティを考慮した広島市感染症情報センターからの効果的な情報発信の方法を検討した。

方法と結果

1 広島市感染症情報センターHPの問題点

現在の広島市感染症情報センターHPの市立大学から見た問題点を表に示した¹⁾。利用者の立場から見ると、広島市全体でのサイト内検索しかできず個別サイト内検索はできない、多様な情報が混在するため情報が得られにくいなどの問題点がある。作成者の立場から見ると、i-Cityでは各コンテンツを更新するとすべて上書きされ、過去の記事を参照することができない、編集作業が煩雑であるなどの問題点がある。現環境 (i-City) ではHPのレイアウトや機能に制約があり、解決が困難な問題が多い。

2 改善策

市立大学から提案された解決方法は、HPの作成・編集環境を制約の多いi-Cityから、機能の拡張性の高いWordPressという別のシステムに移行するものであった。

また、当所においては、現環境 (i-City) での改善策として、独自のHP編集システムの作成などを試みた。

(1) 市立大学提案の改善策

WordPressは、サイト内検索の設定、ブログ形式化が容易であり、利用者の利便性が向上する。WordPressを使用した仮HPを作成し、実装に向け検討を行った。

・サイト内での検索方法の工夫

利用者が効率良く情報を絞るために、広島市感染症情報センターHPに、カテゴリ検索という検索ページを設け、探索の効率化をはかった。

編集においては各ページにタグを付けることによって、そのページが属するカテゴリを設定する。タグ付けは、テキスト入力、タグ付けチェックボックス、自動タグ付機能を設定することにより、編集者の負担を減らす工夫をした。

・情報伝達の工夫

仮HPに、ツイッターやRSS配信、専門的な情報、一般的な情報へのリンクなどの機能を取り入れ、情報伝達の工夫をした。

・現環境 (i-City) でのサイト情報保存システム

編集履歴を保存するために、公開中のHP情報 (HTML) を取得し、リンクの関係ごと保存するシステム (Mac環境) の作成を試みた。現在Windows環境への対応を検証している。

(2) 当所での改善策

・現環境 (i-City) におけるサイト内検索については、市立大学の提案をもとに、広報課と協議の場を設けることとなった。

・混在する多様な情報を整理するため、専門家向け、市民向け等に分類したサイトマップを作成する予定にしている。

・利用者が最新情報を識別できるように、トップページの新着情報メニューに更新日付を追加した。

・編集履歴を保存するため、Windows環境での独自のバックアップシステムを作成中である。

・情報を広く伝える方法の1つとして、広島市トップページの緊急情報に感染症情報 (インフルエンザ最新情報) を掲載した結果、アクセス数が増えた。

・現環境 (i-City) における編集作業の容易化を目的に、Accessプログラムを利用した編集システムを独自に作成した。これにより、制約のある環

*1: 退職

*2: 広島市立大学情報科学研究科情報工学専攻
コンピュータデザイン研究室

境下で HP 編集作業の容易化・迅速化に関して、当初よりかなり改善することができた。

ま と め

市立大学より提案のあった主な解決策は、編集環境として新たに WordPress を用いる方法であり、利用者側と作成者側双方のユーザビリティの向上を図ることができると考えられる。しかし、この方法は外部サーバへの移行が前提である。

当所では、現環境 (i-City)での編集システムを独自に作成し、編集作業の容易化・迅速化に関してかなり改善することができた。

今回の市立大学の提案を受けて、広島市感染症情報センターHPを例に広島市HPの改良について、広報課と協議の場を設けることとなった。今後、利用者側 (市民) と作成者側双方にとってより使

いやすい広島市HPの構築に向けて、i-City環境の改善等を推し進め、効果的な情報発信をしていきたい。

謝 辞

本研究にご協力いただいた広島市立大学大学院情報科学研究科の井上智生先生および市原英行先生に対し感謝いたします。

文 献

- 1) 大岡賢昂 三上雄大：情報科学の技術を活用した広島市の課題解決支援 広島市感染症情報センターからの効果的な情報発信について、広島市立大学情報科学研究科「自主プロジェクト演習」研究成果発表会資料，平成 23 年 2 月 22 日

表 広島市感染症情報センターHPの問題点

立場	問題点, やってほしいこと	改善策	
		現環境 (i-City)	新環境 (WordPress)
利用者	サイト内検索不可能 (市役所全体のみ可能)	困難	デフォルト使用
	多様な情報が混在	困難	カテゴリ検索
	最新情報が分かりにくい	レイアウトの編集	ブログ形式
作成者	編集履歴を参照不能	サイト情報保存システム	参照可能
	情報が広く伝わりにくい	困難	Twitter, プリンタ, メール転送機能など
	編集作業を容易にしたい	困難	新環境への移行 (タグ付けの容易化)

広島市立大学「自主プロジェクト演習」研究成果発表会より引用